

伝染性紅斑が再び増加しています

【概況】

2025 年第 17 週(4 月 21 日～4 月 27 日)の定点あたりの患者報告数※¹は、市全体で **2.31** となり、第 15 週(4 月 7 日～4 月 13 日)以降、再び増加しています。

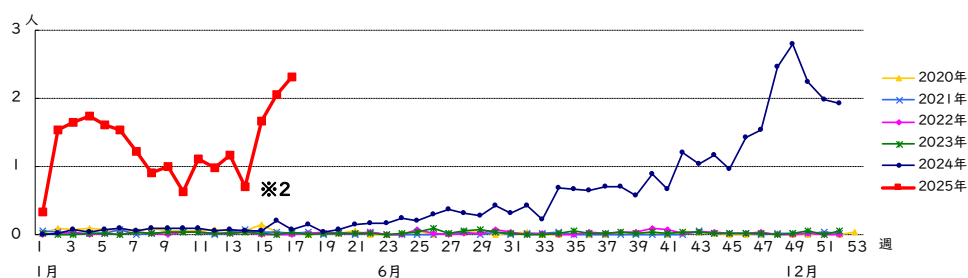
患者の年齢構成は、4～5 歳を中心に報告が多くなっています。

※¹ 定点あたりの患者報告数とは、1 週間に 1 回、定期的に患者発生状況をご報告いただいている医療機関(伝染性紅斑は小児科定点 51 か所)から報告された患者数の平均値です。

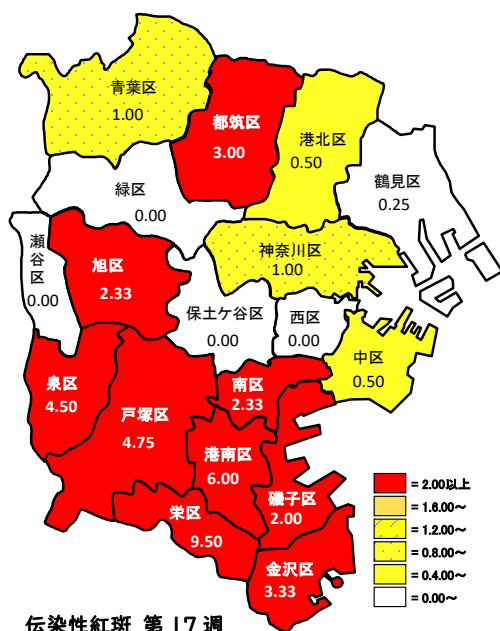
【市内流行状況】

2025 年は、4 月上旬から報告数が増加しています。

患者の年齢層は、4～5 歳が中心で全体の 43.2%を占めますが、小学校低学年相当の報告も多くなっています。



※² 2025 年第 14 週(3 月 31 日～4 月 6 日)以降、報告医療機関数が変更となっています。



伝染性紅斑とは

ヒトパルボウイルス B19 による感染症で、両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」とも呼ばれています。通常は春から初夏にかけて多く発生します。かぜ様症状から 7～10 日ほど経過後、両頬に紅斑(皮膚が赤くなる)が現れ、続いて手足に網目もしくはレース状の紅斑が現れます。小児を中心に流行する症状の軽い感染症ですが、妊娠初期に感染すると、流産や胎児に異常を起こすことがあります。また、感染していても症状が出ない不顕性感染の人が 25%程度います。感染経路は、飛沫感染(咳、くしゃみなど)、接触感染(感染者の飛沫などに触れた手で、口や目などの粘膜を触ることによる)です。アルコールが効きにくいため、予防には石けんによる手洗いと咳エチケットが重要です。



国立感染症研究所 HP より

登校(園)基準

「学校において予防すべき感染症の解説」では、発しん期には感染力はないので、発しんのみの全身状態の良い場合は登園・登校が可能とされています。

(※ 感染力があるのはかぜ様症状の出ている時期で、発しんが出た時にはほとんど感染力がありません)